まほろば秦野通信

令和元年10月25日

	令和元年10月25日
タイトル	秦野市農業協同組合花き部会露地部 秦野産露地菊を市長へ贈呈
When (いつ)	10月30日(水曜日) 午後1時半~
Where (どこで)	市役所本庁舎3階 市長応接室
W h o (だれが)	秦野市農業協同組合 花き部会露地部(部員23人) 〈部 長〉 小川誠一氏 〈副部長〉 亀崎善太郎氏、今井洋司氏 〈会 計〉 大津智司氏、加藤宗雅氏
What (なにを)	秦野産露地菊 約400本
How (どのように)	秦野市農業協同組合花き部会露地部役員が代表して、市長に露地菊を贈呈。贈呈された菊は、市役所本庁舎1階ロビーに飾ります(10月30日~11月8日頃まで)。
Why (なぜ)	秦野産露地菊の出荷量は県内シェアの6割以上(第1位)を占め、市を代表する農産物の1つで、露地菊をより多くの市民に宣伝し消費拡大を図ります。
過去の実績	毎年実施しています。
特記事項	◇主な出荷先 厚木、小田原、横浜、東京、静岡、大阪の市場 ◇毎年たばこ祭の協賛事業として開催する「たばこ祭露地切花品 評会」での花の即売代金を市(はだの福祉基金)へ寄付しています。本年度の寄付額は10,000円の予定です。 ◇小菊の育成概況等 気温の乱交下や曇天が続き、安定しない気象条件での管理となりましたが、常に圃場の状況を確認し、適時防除や適正施肥を行い、今年も品質の高い切花を収穫・出荷することができました。露地栽培のため、お盆・お彼岸等の需要の高い時期に開花のピークを合わせるのは難しい作業ですが、肥料の加減や電照による補光技術の活用・多様な品種を組み合わせることで、春先から秋まで安定した高品質な切花の出荷を継続しています。 品目は、従前より小菊が中心となっていますがケイトウの栽培も盛んで、近年では赤以外の色鮮やかなケイトウの作付けも増えています。 生産者の高齢化の目立つ露地部ですが、新品種や新農薬、新しい栽培技術の工夫に取り組む等、組織の力を活かした研修会を通じて、生産レベルの維持向上に努めています。
問い合わせ	農業振興課農業振興担当 担当:杉原 電話0463(82)9626